

平成30年度 群馬県立太田フレックス高等学校
第1回学校評議員会及び学校関係者評価委員会（概要）

実施日時：平成30年6月27日（水）14:00～16:00

議事等

1 開 会

2 校長挨拶

評議員を引き受けてもらいありがたい。忌憚のないご意見をいただきたい。4月からの勤務のため、皆さんから教えてもらうことが多いがお願いしたい。

3 委嘱状交付（敬称略）

加藤富士人、高山美幸、橋本まさ子、大畑千鶴、高木朋重

4 自己紹介

5 授業見学

6 学校概要説明（校長）

○基本情報

- ・定時制Ⅰ部・Ⅱ部・Ⅲ部と通信制がある。ⅠⅡ部は昼間、Ⅲ部は夜間である。通信制は月2回スクーリングを実施している。単位制普通科である。
- ・学年制、ホームルームがなく、ゼミ担任がHR担任として対応している。生徒は授業をめぐって、登校したり休んだりする。生徒本意の動きであり、うまくつなぎの授業をしないと生徒が来ない。全て出席することが保証されているわけではない。弾力的な学びの場となっている。

○教育目標・本校のニーズ

- ・教育目標は、「生涯学び続けることができる生徒の育成」である。
- ・小中学校の時に、学校に通えていなかった生徒の学び直しの場という部分もある。「生きていて良かった」という保護者の言葉もある。この学校のニーズには大きなものがある。

○生徒指導

- ・生徒指導においては、職員が丁寧に対応している。個に応じた支援指導を行い、個の人格を重んじている。怒鳴り声を聞くことはなく、体罰を見ることもない。生徒の成長を見ることができる。

○今後の方向性

- ・14年前に開校され、東部地区のフレックス・スクールとして存在している。その理念と運用について指導を受けるタイミングである。
- ・定時制通信制合同の年度当初の職員会議の際に、「生徒・職員・保護者・関係者がわくわくする学校作り」を職員に呼びかけた。キーワードを拾った反応があり、何かができるのではないかと期待感がある。その何かを教えてもらいたい。
- ・同窓会の方向付けも行いたい。
- ・「わくわく」という理念をともに、様々調整したい。

7 各部概要説明

(1) ⅠⅡ部

① 主な年間日程

- ・秋季卒業式と秋季入学式があるのも特色である。
- ・9月に入試説明会・学校公開、11月にオープンスクールを実施する。

- ・他校に比べ行事は少ない。修学旅行はない。チャレンジウォーク、フレックス発表会、レクリエーション大会等がある。
- ② 進路状況・資格取得
- ・昨年より多く、97名が卒業した。
 - ・求人が増え、就職状況はよかった。また、保護者の景気が良いことで進学も増えた。
 - ・進路状況のその他については、まずは卒業し、その後進路を決定する、進学できる金銭的準備をする等の生徒である。
 - ・全国高等学校家庭科保育技術検定4級を32名（Ⅲ部生徒含む）が取得した。
- ③ 生徒指導
- ・5月のゴミレンジャーは雨で中止となってしまった。11月に行われるが、地域と連携ができればよい。
- ④ 進路希望状況
- ・昨年度より卒業予定者数は少ない。
 - ・本校は3年で卒業というわけではないため、卒業生数は流動的である。
- ⑤ 開講ゼミ
- ・Ⅰ部、Ⅱ部それぞれ12のゼミがあり、それぞれ特色ある活動をしている。
- (2) Ⅲ部
- ① 年間日程
- ・ⅠⅡ部と共通の行事も多い。
 - ・集団活動としてのレクリエーション大会や球技大会はⅢ部独立で実施しており、生徒会中心に種目設定するなど生徒の主体性も伸ばしている。予餞会もある。生徒数が79名と少ないため、お互いに知っておりまとまりのある活動となる。
 - ・生活体験発表会では、全員が原稿を書き、ゼミ代表が発表し、地区大会に参加する。つらい体験等をしているが、発表を通じてそれを今後の生活に活かす。
- ② 進路状況
- ・20名が卒業し、四年制大学進学者3名、専門学校進学者5名、就職3名であった。
 - ・その他は、アニメーション学校等の進学やアルバイトをして進学準備等である。
- ③ 委員会活動・部活動
- ・保健・広報委員会と交通・美化委員会はそれぞれ生徒向けの『たより』を発行している。
 - ・陸上競技部は全国大会に出場する。
- ④ 開講ゼミ
- ・ゼミは8つあり1ゼミ10人くらいである。
 - ・フレックス発表会に向けて準備をしている。
 - ・ゼミの出席率は高く、仲間に会いたいという思いを生徒は持っている。
- ⑤ 就業状況
- ・4月当初で50%の生徒がアルバイトをしている。
 - ・アルバイトだが8時間以上働いている生徒や家計の中心を担っている生徒もいる。アルバイトと勉強の両方を頑張っている。
- (3) 通信制
- ① 在籍等
- ・333名が在籍しており、現在そのうち173名が学習活動に取り組んでいる。
- ② 年間日程
- ・年間16日スクーリングがあるが、その中に行事を盛り込むことは難しい。
 - ・美化活動、アドベンチャーラリー（ウォークラリー）、校外学習（ぐんま昆虫の森・足利フラワーパーク・館林美術館のローテーション）、生活体験発表会（上位の大会に参加）等の行事がある。
- ③ 進路状況
- ・秋季卒業12名、春季卒業27名、合計39名が卒業した。
 - ・四年制大学1名、専門学校2名、就職2名であった。数が少ないのは、元々働いている生徒も多いという現実もある。また、卒業したという実感がないと次に進めない

いう生徒や卒業してから進学準備をするという生徒もいる。

④ 生徒指導

- ・予定や生徒指導に関する内容を掲載した『フレックス通信』をスクーリングの度に配付している。欠席者には郵送している。
- ・ホームルームはないが、一人一人にレターケースがあり、それを活用している。
- ・いじめアンケートを実施しているが、いじめは認知されていない。
- ・今はないが、以前に商業施設からの苦情があった。予防の意味で、現在も巡視をしている。

8 学校評価の説明

(1) 定時制

- ・完全単位制である、学年・学級がないがゼミがある、学校設定科目がある、少人数制授業である等の本校の特色を特色で終わらせることなく魅力とするために、具体的数値目標と方策を設定している。
- ・基盤となるのは、個に応じた指導ときめ細かな指導である。
- ・最近の社会的問題をふまえて、「SNSに関わるトラブル」の項目を新たに設けた。
- ・進路指導と出口指導のさらなる充実を図りたい。

(2) 通信制

- ・スクーリングに来た生徒がコミュニケーションを取るのが難しいという現状がある。個に応じた指導、丁寧な指導を行っている。
- ・生徒が「学力が向上した」と実感するのは難しいが、繰り返し指導する。
- ・単位修得率は通信制の全国平均は50%程度であるが、50~60%を目標とする。1つでも多くの単位を修得させたい。これは、学力向上と関連性がある。
- ・「学校生活が充実している」と考える生徒を増やしたい。
- ・卒業後に向けた進路指導の充実と、進路目標実現に向けて生徒が努力できる支援の充実を図る。

9 質疑・意見拝受

○ [質問]

- ・バイク通学は認められているか。以前、近隣のアパートにバイクを置き、そこから学校にむかっている生徒がいた。

[回答]

- ・通信制では、条件が満たされれば許可している。

○ [質問]

- ・修学旅行がない理由は何か。

[回答]

- ・県の構想による。単位制のため、1つの授業に様々な年齢の生徒が出席しており、学年としてのまとまりで修学旅行を実施することはできない。かつて1回だけ、夏休み中に修学旅行を企画したことがあったが、参加率が低く続かなかった。

○ [質問]

- ・地域清掃における関わりをどのように考えているか。

[回答]

- ・回覧板で回してもらい、一緒に活動してもらったこともあった。

[補足]

- ・地域にはPRする。連携までは難しいが、お手伝いしたい。

[学校提案]

- ・防災や災害時の連携を行いたい。

○ [質問]

- ・入学後や就職後の様子は把握しているか。すぐに辞めていないか。

[回答]

- ・産業技術専門校に今年進学した生徒が全員、学校訪問に来た。

- ・離職率の調査はしていない。

[他委員補足]

- ・生徒から、太田フレックス高校に行ってきたということを知る。つながりが深いのだと思う。
- 太田フレックス高校が開校して14年になった、「フレックス」は、全国的にも注目される取り組みである。勤労生徒という枠ではなく、「学び直し」を前面に出し、学習機会を与える。
- ⅠⅡ部がいかに機能するかが重要となる。
- 新しいことをリードする。
- 演劇入門のような学校設定科目は良い。履修もしやすい。必修科目も計画的系統的に対応する。
- 14年で次の時代のニーズが出てきている。ホームルームの役割を担うゼミは生徒には良いが、人間関係形成能力を単位制の授業の中でどのように築けるかが重要である。小中学校で不登校の生徒や、社会で人間関係において特別な支援が必要な生徒が増加している。そのような生徒の支援が必要である。
- 外国にルーツを持っていたり様々な背景を持っていたりする多様な生徒に対し、どのような能力を付けさせるかを考える必要がある。東京都や神奈川県では、コア・カリキュラムを導入し自由度を下げ対応している。キャリア教育の観点も含め、基礎基本に関わるコミュニケーション能力や言語活動をどのように深めていくのか見ていきたい。

[学校補足説明]

- ・確かに外国にルーツを持つ生徒は多く、日本語に課題のある生徒もいる。
- ・NPOのG Community と連携し、学習サポートを行っている。
- ・個の必要性に応じて、ソーシャルスクールワーカーの配置の要求も検討していきたい。
- わくわくする学校経営には感銘を受けた。
- 授業には活気があり、質問が出されており良かった。
- いろいろな背景を持つ生徒に、経験と心の安定のために多くの先生が関わると、最終的に社会に関わる生徒の育成につながる。言葉で言うのは簡単だが難しいことであるので、指導をお願いしたい。
- 就職や進学が増えている。しっかりとやっていることが見受けられる。
- 生徒と先生のフレンドリーな関係が良い。
- フレックス発表会の演劇部の発表には感動した。
- 卒業式は、良い雰囲気であった。卒業生だけでなく在校生もスーツ・ブレザーで普段とのギャップを感じた。答辞や同窓会長の挨拶に感動した。
- 今まで学校のイメージはあまり良いものではなかったが、授業を見て見直した。これからも生き生きした生徒を見たい。
- 太田フレックス高校では、様々な背景を持つ生徒に寄り添って指導をしてくれている。PTA役員は、「この学校があって良かった」と言っている。
- 生徒と先生の信頼関係があり、それが授業でも現れている。
- 吹奏楽部公演では生徒一人一人が生き生きとしており感動した。Ⅰ・Ⅱ部、Ⅲ部と、時間が合わない中で初めて全員が揃っての演奏だったそうだが、互いに信頼し合っているからできる演奏だったと思う。先生や仲間から促される自信は社会でも役立つ。成功体験を積んでもらいたい。
- 生徒も職員も保護者もわくわく。PはHOT（情熱）を持ってやっていきたい。

10 諸連絡

- 第2回は、年明けに予定しており、年末に日程調整したい。
- 学校評価については、第1回の評価を集約した後に、意見をもらいたい。
- 評価を職員に伝えたい。評価を教育活動に生かしたい。
- 第2回評議員会でもお世話になるが、それ以外でもふらっと来校し意見を頂戴したい。

11 閉会